

# Bo dei 菩提だよん

No. 0008 '03.8.24(日)

発行人: 相田探求人 松岡賢二

神奈川  
Tel/Fax  
E-mail



▲未だ、とまとも残っているが.....

## いよいよ秋冬作の準備にはいりました!!

お元気ですか? 菩提のmyはたけの「我子たち」も  
天候不順のこの夏にあっても、充分に楽しませてくれま  
した。まだまだ、からいも、落花生、  
さといもの収穫が残っています。



▲ばうざりと除去して石灰入れ。



▲新しくバカ大掛けす

## 秋冬作の準備

### きゃべつの発芽



▲自宅でのPP苗づくり  
(左からきゃべつ、ブロッコリー、  
カリフラワー)

昨日はお疲れさん、そしてありがとう!!  
今、緩子しゃんは、いびきをかいて、ベットに寝ている。昨日  
の疲れじゃなく、未だ風邪が治っていないらしい。ピーコ、ピーコ  
と印刷を出すのも、側を回って机に行くのも、気にしなければなら  
ない。  
台風で、風よ、あまり吹くな! と祈ったことが、今や緩子しゃ  
んの風邪よ、はやく治ってくれ!! になっている。

ところで、あの菩提のmyはたけ、充分にいいところだろ?  
充分に楽しませてくれるし、これからも、秋、冬作で大いに楽  
しませてくれるだろう。  
作付けの予定は、きゃべつ、ブロッコリー、カリフラワー、白菜  
じゃがいも、大根、高菜、からし菜、そして、あの芸術的区画に合  
うのが、「芽きゃべつ」なのだ。  
この「芽きゃべつ」を、芸術的に配置し、ポロポロの成長を楽し  
みつつ、またまた「おお、我が子たちよ」となる。

今はただ、自宅のベランダとままと戯れ、ポリポットで苗を育て  
ながら、よっしゃ、やるぞ、やっつたるぞ! と、充電している。  
この、くそ善い8月に、またこつこつと働くお父さんの姿がある  
のかもしれない。

じゃ また がまだしなっせ お父さん



▲食べるだけのお水



▲小玉すいかと弘明君

## 8/10(日)夏の収穫祭

すいかを切り、ビールで  
乾杯!!  
あと、さといもができ  
たら、「いも煮会」をやろう。  
そしてまたまたビールで乾杯!!



▲未だぶ整理の  
緩子しゃん

速か速く、菩提のmyはたけからの、メール0016号。  
8月3日、Don会と一緒に長嶋さんが来てくれた。会は、  
いろいろあって去年詰めたと言う。ああ そうと言いながら、この  
菩提のmyはたけの、今までの流れを説明した。  
8月4日、4th研修日。秋、冬野菜の作り方、きゃべつの播種  
いよいよ第2期に入る気だ。

8月6日、きゃべつの発芽のチェックから芽ヶ崎 風の里へ。こ  
こでも、すいかを食べた。して、、、ふふふ、お父さんのすいかに  
思いを馳せる。

8月7日、台風接近のニュースから、中央アーチ、なす、きゅう  
り、とまとの補植。もう大丈夫だ、いつでも来い、来やがれ!!  
だが、やはり来た、来やがった! 9日はダメ。

8月10日、台風一過、少し傾いた中央アーチを直し、少しずつ  
収穫して、いよいよ「夏の収穫祭」すいかをナイフで切り、ビー  
ルで乾杯、今までの苦労が吹き飛んだ。  
それ以外にも、このすいか、充分に育っている。腹のなかで、ふ  
ふふふと言いつつ、「自然」と菩提のmyはたけに感謝している。

8月13日、秋、冬作の準備。出来の悪いとまとに、愚痴の一つ  
も言いつつ、それでも感謝と、ごめんね、ごめんねの心で、全て撤  
収。枝を切り、根を掘り、支柱を片付ける。

記録を見ると、  
大玉とまとから、10株で67個、まあ不作。  
小玉とまとは、3株で294個、これでも不作も帳消し!!  
はたけに穴を掘り、枝、葉を埋めて、石灰を撒き、唐黍でうない  
込む。これで、準備の下準備は完了。  
きゃべつ、はくさい、たけのこはくさい、チンゲンサイ、タアサイ、  
じゃがいも、たかな、からし菜、いつでも来い。  
堆肥の堆肥に鶏糞を混ぜ、さらにうない込めば、種まき、苗の  
定植が出来る。天気と時期と気分次第だ。

さあ、やるぞ!!  
秋、冬作は、葉もの、菜ものが多く、目立つ作物がないため、種  
屋と相談して、芽きゃべつをメインにしたんだ。  
またまた、楽しみにしてくれ。

じゃ また お父さん

「きゃべつ」の心

松岡 賢二

3日前に播種したキャベツの育苗箱を眺めていると、不揃いの発芽ながら、それぞれが自己主張している。

双葉で間引きされ、2~3枚の本葉で選別されながらポリポットに植え替えられ、更に本葉7~8枚で畑に定植される。この過程で「キャベツ」の心はどれだけ尊重され、どれだけ活かされているのだろうか？

ふと考えてしまう。

秦野市名古木の棚田、泥田との出会いが神奈川県内の棚田探しに、そして関東地区の「棚田旅」に連なった。

唯々有名な、綺麗な、写真映りのよい棚田が必要じゃない。そこに人が居て、人が働き、稲を育て、棚田を守っている・・・その現場で話が聞きたい。

だが現実には厳しい。平日でも土・日でも人影はない。減反や高齢化、耕作放棄の実態が何処にもある。町や村役場を訪ね、話を聞いてもそれぞれの取り組みに違いが有るし、農政への意欲が伝わってこない。

それでも「棚田旅」に出ていると、生身の声への憧れがあり、とにかく話がしたいし、声が聞きたくなる。

数少ない現場の人の話や声を、持ち帰って、秦野市名古木の棚田復元の作業に生かし、一畝一畝に思いを込める。

そして一年、ともかく棚田は復元し、今や青々とした田圃になっている。



こうした中で、復元する田圃を里山・里地全体としてとらえる、全体の中のひとつとして、関連して考えて行く。

やっと行き着いた方向性のなかで、復元作業に関連して、神奈川みどりのトラスト、厚木市七沢の自然環境センターへ、さらに川床対策で

綾瀬市の「デ・コの木」と、飛び回りながら相談し、話を聞き、教えを乞うてきた。

『風の里』のグループとは、この流れの中で出会った。

人がいる、山があり、畑があり、田圃がある。里山・里地の条件が揃っている。

地方都市特有の「俺たち、文化人！！」が見当たらないのがいい。長年の活動の中で生み出される「俺たち、文化人！！」は頭でっかちになる。自分達の文化を説教し、押し付け、時には行政までも指導したがらる。

今やらなければ・・・の気持ちが、俺たちがやらなければ、となる。俺たちがやっている、俺たちがやらなければ・・・と、行き詰まってくると、もうその「会」や組織は『濃み』の中にいる。



『風の里』のグループには、それが無い。自然体で自然を受け入れ、自然に対処するだけで、何の気負いも無い。

何年後かの全山開園まで、この姿勢のままできて欲しい。多くの人と接し、体験交流し、共同作業する中で判ってもらえばいい。俺たちが、俺たちだけが・・・その言葉があってはならない。

この四月から始めた、秦野菩提の菜園づくりの中で、『自然』に接してきた。誰とでも挨拶し、話し、教わる楽しみを知った。パイプ椅子に座って、ひばりの囀りを聞きながら『我が子たち』の生育を見守る、まさに至福の刻にいる。

秋・冬、野菜に育てる ポリポットのキャベツを見ながら、不揃いの発芽も、梅雨の日照不足に不満も言わず、ヒョロヒョロの姿で揺れるブロッコリーの幼苗にも常に感謝し、共に成長して行きたいと思っている。

付録

茅ヶ崎・風の里の会報『風の里だれ』への投稿です。

風の里のグループは、里山保全ボランティアとして、県立里山公園の保全に関わっています。

この会との交流会や会へのスタンスは左の文中にあります。毎週水曜日の活動日と、菩提のmyはたけの作業日程を詳しく調整しています。



稲穂と虫たち



03.6/15(日) みんなで田んぼぞり ▲



03.3/5(日) 古白修里方のたのしみつき